

インディアナ日本語学校便り

だいごう
第38号

令和7年2月22日事務所 317-255-1631 メール ijls@indiana-j-school.net

(HP) <http://www.indiana-j-school.net>

校長 森 勝義

「児童生徒の作品集⑥」

～学習のまとめ～

校長 森 勝義

おすすめの本

6年2組 小森 都宥子

私はミヒヤエル・エンデ作の「モモ」を紹介します。

初めに、なぜこの物語を紹介しようと思ったかと言うと、厚い本なのに、文章がページにゆったりと配置してあって、読みやすいからです。私は、厚い本は文字がいっぱいあるので、読むのを後回しにしてしまいがちなんですが、「モモ」は、もう少し気軽に読めるような気がします。

主人公は、モモという名前の孤児の女の子です。そしてモモの友達が時間を奪われてしまい、それを取りもどす物語です。私が特に気に入っているのは、カシオペアという30分先の未来が予測できるカメです。彼女は、モモと一緒に冒険します。

「モモ」は面白い話なので、ぜひ図書館で借りてみてください。

「考える」とは

6年1組 赤木 七海

「考えるとは」の鴻上尚史さんのお話を読んで印象に残ったことは、「考えることと、なやむことを区別する」という部分です。なぜなら、考えるということは、自分の経験に基づいて何か予想をすることで、なやむとは、何かを心配になったり何か苦痛のことを表していることが分かりました。私はたくさんの人がいる前でスピーチをしたことがあり、私は考えることとなやむことを考えていました。私がなやんだことは、「せっかくスピーチのセリフを暗記してきたのに、せりふを忘れたらどうしよう。」や、「上手にいかなかったらどうしよう。」と思いました。私はとてもなやんでいました。ですが、お母さんが言ったことを思い出しました。「みんなが聞こえるように大きな声でしゃべったり、前をむいてスピーチするといいよ。」と教えてくれました。そして私は、「どうやったらスピーチを理解してくれるかな。」や、「どんな大きさを話せばみんな聞き取ってくれるかな。」と考えました。私は鴻上さんのお話を読む前に「考えることとなやむこと」を理解していたのだと思います。

「考える」とは

6年1組 佐藤 翔紀

ぼくは「考えることとなやむこと」の話が特に印象に残りました。なぜなら、ぼくは、考えることとなやむことの違いに気づかされたからです。この話を読み終わった後、次になやんでいる時にはどうすればよいか分かった気がしました。例えば、1か月前テニスの

試合をしていた時には、サーブがよく入るかな、となやんでいました。でも次からはどうやってサーブをよく入れるかを考えた方がいいと思います。具体的に言うと、トスを真っすぐ上げる、ラケットを上によくふっていき、そして、リラックスすることに気をつけたいと思います。こうすることで、なやむことだけではなく、サーブがよく入らないかもしれないかもしれない問題を解決できると思います。これからは、なやむことや考えることの違いに気を付けていきたいと思います。

2月15日作品		土曜パラダイスで紹介
小学2年1組	山崎みのり	「いちねんは 思ったよりも みじかいな」
小学3年2組	北川 佑菜	「テリー先生 じゅぎょうすきだよ ありがとう」
小学3年1組	青砥 世那	「えらばれて 読み人知らず かなしいな」
小学6年1組	古川明伊那	「卒業式 見る側が 今する側へ」
小学3年3組	松田こうた	「6年生 まんがをかくの じょうずだな」
中学2年1組	中2ガール	「形容詞 形容動詞 テスト範囲」
小学3年1組	長内真乃助	「こうちょうせんせいいろいろかぶっておもしろい」
小学3年1組	遠山 聡甫	「神さまが もっているひこうきは かみひこう」
ダジャレコーナー		
小学1年3組	福村真那斗	「カービィーが かびた」
小学2年2組	椎名 駿介	「ふくろに ふくろう」
小学1年3組	白井 朝陽	「みかんが みっかんない」
小学3年2組	川端 岳	「たらこをたべて はたらこう」

けい めい く とう

鷓鴣狗盗

つまらない芸や技能を持つ人。つまらない芸や
策でも時には役立つということ。

**大事を小事の
犠牲にしてはならない。**

ゲーテ

1749年〜1832年 ドイツの詩人・小説家。

優先順位を明確にしよう。問題解決や時間の有効な利
用につながるはずだ。

ヒゲ森の言葉の森・探検